

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300016		
法人名	有限会社 FKKサービス		
事業所名	グループホームうれし家		
所在地	岐阜県養老郡養老町鷺巣1125-17		
自己評価作成日	平成25年10月20日	評価結果市町村受理日	平成26年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosyoCd=2192300016-008PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは職員を含めて「自分や自分の家族を利用させたい」と思う気持ちを大切に、日々業務にあたっています。家ではおおむね一人で介護されていて、なかなか外出をさせてあげられなかった、という家族の気持ちを汲み、天気の良い日にはほとんど外出しています。また、家族様も参加可能な外食デーも設けています。地域密着型という特性も活かし、地域活動や、展覧会などにもすすんで参加するよう心がけています。身体的な介護はもちろん必要ですが精神的なケアに重きを置いています。今までの生活スタイルも大切に、新しいつながりを作っていけるような援助をしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設6年目を迎え、利用者の重度化も進んでいる。個々の残存機能を支え、外出の機会を増やし、外食などを楽しんでもらっている。行きつけの喫茶店では、店主や常連客との会話を楽しみ、生きがいのある暮らしにつなげている。春と秋には、社有車で、木曾三川公園や養老公園等、思い出の場所に出かけ、季節の移り変わりを味わっている。終末期には、家族の協力を前提とし、これまで数例の看取りを行っている。今後も、主治医と訪問看護の診療を受け、連携しながら、最期まで、その人らしく生活できるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議、ケース会議、研修を行い意見交換しながら実践につなげている	理念は、住み慣れた地域での生活の継続を含め、5項目である。目立つ場所に掲示し、職員会議でも確認している。地域のなかで、慣れ親しんだ生活が継続できるように実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や外食、地域の清掃活動への参加などを行っている。ボランティアの受け入れも再開している。	地域内掃除や駅前の草抜きに、地域の一員として参加をしている。地域の生け花展に出展したり、住民に向けた介護相談や、老人会で認知症の講演を行うなど、地域と支えあう関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議やケアマネ会議などで在宅での介護の状況などを報告し合うようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加される区長様などの介護の経験談や要望もお聞きし、お互い意見交換している。最近では大雨による災害があったため、雨でつかる道路などの確認を行った。	隔月に運営推進会議を行い、行政・住民・利用者・家族が参加している。サービスの実情を報告し、意見を交換している。大雨と水害対策を、過去の実例で検討し、自主防災訓練に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括との連携が定着してきて、お互い報告しあって、相談もしやすくなった。	運営推進会議に出席した担当者に、運営の実情を報告し、意見交換をしている。法改正の情報や運用で指導を受けたり、家族が困っている事例も相談し、相互に協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中職員が見守り強化できる時間帯は施錠していないが、夜間は一人体制になるので玄関の施錠を行うことを家族に同意してもらっている。	身体拘束ゼロの取り組みを行っている。言葉の拘束や行動の拘束など、場面をとらえて学習をしている。安全上、ベッド柵や鈴をつける場合は、家族と同意書を交わしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	様々な研修を行うなかにも虐待についても取り上げている。業務として全スタッフが入浴を担当するようにし、身体チェックを欠かさずするようにしている。職員が立ち上がり介助の時に手首を持ってしまいアザが出来ていたケースがあった。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人制度を利用した事はないが、身近な例を出しながら研修している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には思いつかなかった質問にも後日説明や理解をもとめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で行っている。加えて1ヶ月に1度家族と面談・書類でのやりとりで聞き取りを行っている。	毎月、家族との面談日を設け、意見や要望を聴いて、運営に反映させている。近況報告で、本人の健康状態や生活の様子が、家族に分かりやすく伝わり、距離感が縮小し、信頼関係を深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議とは別に、個別に話をする時間を設けている。管理者も現場に入り意見を交わせるようにしている。	職員会議や日々の申し送りで、職員の意見や提案を確認している。職員からは、個別介助の留意点や自身の働きやすい時間帯の希望など、意見・提案を取り入れ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は様々な家庭事情をもって働いているので希望休を多く取ってもらうようにするなどの対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な資格を持った職員がいるので、働きながら教え教わり、日々業務にあたっている。外部研修には希望者を優先し参加している。今年度は町内の他グループホームへの研修も行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	養老町のウーループホーム協議会を設立し、お互いの運営状況や困った事例など包み隠さず話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは施設に慣れてもらうことを前提にスタッフが間に入り入居者同士の輪を広げるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに家族と話し合いを重ね、どのようにケアしていくのかを相談する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	長期目標を大切に短期目標を設定するように心がけている。そこへ向かって出来ること、出来そうなこと、出来ないことを家族、本人と話し合いケアするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護ではなく、介助であると考え一緒に暮らしていくにはどうするか・・を基本に共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも定期的に近況報告したり行事に参加してもらいながら関係を築けるよう努めている。前年度よりも家族と会う回数を増やし、現状報告するようにした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通いなれた喫茶店や神社、お寺などに継続して出かけられるよう支援している。	地元の人の訪問があり、知人・友人との交流の場になっている。道の駅で、近所の人と会って会話を交わしたり、家族と協力し、馴染みの喫茶店や寺社参りに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り共通の趣味や過去を話題に出し、つながりが持てるよう支援している。井戸端会議が嫌いな方がみえるので個別で物づくりをして頂くレクが増えた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や季節の挨拶で近況報告をたずね、フォローできることがあれば相談してもらっている。福祉施設の違いが分からない、と言われる事が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望は当たり前にあるものなので、第二の家と思ってもらえるようスタッフ、入居者同士のつながりを深められるよう心がけケアにあたっている。他者とのつながりを持ちたくない方がいて、対応が対処療法になってしまっている。	日々の会話や表情、態度などから思いや意向を把握している。習字の得意な人には、その能力を発揮できる場を提供している。一人ひとりの思いを受け入れ、生きがいのある暮らしに結びつけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まずは家族からの聞き取りだが、入所後早くなじんでもらえるように、スタッフが間に入るなかで自己紹介を兼ねて生活歴を話されるケースが多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化のあるケアプランをたてる為にも、日々現状把握に努めている。今年度から1ヶ月に1度家族と会うか、文書による意見交換を始めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	理想は関係者が揃って話し合いを出来ればいいのだが、なかなか難しいのでホームが橋渡しを兼ねて意見交換をし、介護計画につなげている。	家族面談の日に、介護計画を説明し、意見をもらっている。職員間で状態を評価・検討し、必要に応じ、主治医の意見を、計画に盛り込んでいる。3か月ごとに見直し、安心して暮らせるような介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議で個別ケアについて情報交換している。小さな変更は申し送りノートで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までの通院やリハビリを継続できるよう、家族にも協力してもらっている。健康診断の際は必ず付き添いをお願いしている。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の展覧会や運動会に参加できるよう支援している。入居以前に習っていた習字やお花などはボランティアで来苑していただく機会をもてた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力も得て希望の病院、診療を受診できるようにしている。	本人と家族の望む、かかりつけ医を継続している。受診は、家族の役割である。緊急時や医師への説明が必要な際は、管理者が同行し、適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用しているので、24時間365日看護を受けることができる。また職員も相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院をしてもらうよう話をしている。退院前のリハビリ訓練や入院時は状況を把握してもらうようお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期ケアについて説明し、同意書をもっている。併せて特別養護老人施設などへの申し込みもお願いしている。	重度化しても、医療行為を伴わない場合は、ホームで看取る方針としている。契約時に、他施設への入所申し込みを行っている。看取りは、主治医と家族が十分に話し合うことを前提としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員 定期的に救急救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行うと共に、区長を通して地域の方に避難介助を支援してもらえるように話し合いをしている。	年に2回、消防署の立会いで、夜間を想定した災害訓練を行っている。初期消火や通報、誘導などを実施している。訓練には、住民も参加し、災害時の役割分担を確認している。備蓄は、倉庫に確保している。	大雨による水害の歴史がある。今後とも、継続した自主訓練と、職員の防災意識の向上に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴をもとに、NGワードなどを把握するようにしている。症状の変化により対応が変化するので、情報の共有を心がけている。	利用者の個性を重んじ、本人の誇りを損ねない、言葉かけを行っている。着替えやトイレ使用时、入室など、本人の気持ちを察し、羞恥心に配慮して、対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を出してもらおうような働きかけは特に意識していない。お互い信頼関係ができると自然と希望を言われる事が多いので。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日は外出レクをおこなっている。皆さん外出好きなので希望を普段から聞くようにしている。車酔いをされる方が多いので外出レクを考えるのが困難な場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や更衣の準備は自分の好きな物を選ぶよう支援している。整容は訪問散髪が2ヶ月ごとにあり、希望通り行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はイベントのときなどに、ホットケーキを作ったり恵方巻きをしたりとスタッフと楽しく作ってられる。	職員が家庭的な調理を作り、高齢者用の食材を取り入れている。個々の能力に合わせ、配膳やテーブル拭きなどを手伝い、おやつや行事食づくりに、職員と共に楽しく関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えたシルバー食として材料を取り職員が調理している。水分が摂りにくい方はゼリーなど水分含有量の多いものを食べてもらうなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2週間に一度の訪問歯科をはじめ、先生の指導を受け口腔ケアを行っている。数名は8020運動で受賞されました。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで済ませるよう支援している。それぞれの排泄パターンを把握することで、日中の失禁が無くなった方もいる。	個々の排泄パターンに対応し、立位がとれるように、自立を支援している。さりげなく誘導することで、紙パンツやパッドの数を削減している。夜間は、状態に応じて、ポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に頼らないよう水分補給やヨーグルト、センナ茶を利用している。食前のリハビリ体操で腸を動かす運動をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を聞くようにしているが、全ての希望に答え切れていないのが現状です。	入浴は、週に2回である。希望があれば、回数を増やしている。1階の大浴場では、気の合う同士で入浴し、会話を楽しんでいる。重度者には、職員2人を配置している。	利用者の重度化に合わせ、介助の工夫や福祉用具の活用に期待をしたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特別な時間配分はしていないので本人の意志に任せて援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2週間に一度内科往診などがあるので、薬剤の変更相談などがあれば薬局からの説明もあり、専用のノートに書き込み共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別対応を重視しているので、喫茶店やドライブ、ショッピングなど希望に併せてスタッフを配置するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば家族の協力を得て一時帰宅や外食をしてもらっている。遠出希望の場合は遠足などの行事として計画を立てるようにしている。	個々の希望やグループに分け、外気浴と散歩を楽しんでいる。また、近くの寺社参りや季節の花見、紅葉見物など、ドライブを兼ねて出かけている。	

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失のリスクもあるので持って頂けるのは3000円までとお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶や年賀状のやり取りをはじめ、日常の電話もいつでもかけてもらっている。(家族の了解がある場合のみ)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩の際に花を摘んで飾ってもらったり、作品を作ったりして季節感を取り入れている。トイレや洗面も分かりやすいように手作りの表示を追加している。家族にもお孫さんの写真などを持ってきていただいた。	共用の間は、空調が整い、明るく快適な空間である。居間の洗面台は、車椅子に合わせた高さである。街道沿いであるが、騒音も少なく、見やすい表示物には、季節感があり、居心地よく過している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテレビやソファがあり、食事のあとにはみなさんで談話されたり居眠りしたりと自由な時間をすごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族、スタッフで居室作りをしている。家族には写真や賞状を持ってきてもらっている。	介護用のベッドとタンスは備え付けである。居室内を広く確保し、家具の配置に配慮をしている。使い慣れた、背もたれの椅子と馴染みの写真や書物を並べ、個性のある落ち着いた居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	定着した席位置ではなく、その日の気分や身体状況に合わせて配置を替えたりしている。入居者同士のその日の相性もあり、席替えの頻度が多くなっている。		